

ゆたか俱楽部 よもやま話

vol. 21

クルーズご意見番“初代クルーズマスター 松浦睦夫”が語る

「人は船旅に帰る」。この言葉はホーミページなどでも掲載していますが、ゆたか俱楽部のスタッフは皆それを信じ、クルーズでしか味わえない感動をひとりでも多くのお客様にお届けすることを使命に日々業務に励んでいます。新型コロナウイルスの影響で、飛鳥Ⅱ、つばん丸、ぱしふいづくびいなすの日本船3船の運航中止が続いています。弊社ではフェリー・高速船・小型船のチャーターを利用したパッケージツアーを「島旅」としてシリーズ化。7月には、毎年恒例の「下甑島・上甑島クルーズ」を無事催行することができました。今後も個性豊かでゆたか俱楽部でしか出会えないので、ご期待ください。

「島旅」シリーズの多くは、私が企画し、添乗もしてきました。フェリー・高速船などはクルーズ客船と違つて定期船なので、出航する場所・時間が決まっています。テーマと船と観光とホテルと予算を、どのように組み合わせたらお客様が喜んでいただけるか、それを考えるのがとても楽しいのです。定期船は書

型客船によるチャータークルーズは、船のスケジュールを押さえるための予約金が必要なだけでなく、もしツアーセンターや運送業者によっては、料金がかかることがあります。しかし、フェリーの旅は、そのコースに参加者が集まらなかつたら中止にしたり、現地での観光移動手段をバスからジャンボタクシーにするなど少人数向けにアレンジしたりすることができます。自分でコースを作れそうと思うかもしれませんのが、案外これが難しいものです。昔のことですが、本誌「ポン・ボヤージュ」でもコースを公募したこともありました。この場所のこの季節にはこんな花が咲く、こんな祭りがあるから新造船で行きたいなど、具体的なコースもいただきましたが、そのままコースにできない、となりすぎるからです。船を降りてからその場所に行く道が混みすぎると、観光を楽しんでいただく時間が少なくなるだけでなく、もしかしたら観光できずにならなくてはならなくなってしまいますので、ご期待ください。

「島旅」シリーズの多くは、私が企画し、添乗もしてきました。フェリー・高速船などはクルーズ客船と違つて定期船なので、出航する場所・時間が決まっています。テーマと船と観光とホテルと予算を、どのように組み合わせたらお客様が喜んでいただけるか、それを考えるのがとても楽しいのです。定期船は書

イベントはなく(一部のフェリーを除く)、もちろんドレスコードもありません。食事が簡素なものしか用意されていないとなつたらキャンセル料がかかります。しかし、フェリーの旅は、そのコースに参加者が集まらなかつたら中止にしたり、現地での観光移動手段をバスからジャンボタクシーにするなど少人数向けにアレンジしたりすることができます。ですから、お客様に喜んでいただける内容だけを考え自由に企画できるのです。最近はコースがだんだん細分化し、平均15名様で催行なので、新型コロナウイルス対策で3密にならないようになります。でも適正な水準かと思つています。

フェリーに比べ、乗船料が安価なのもフェリーの魅力です。フェリーが運ぶ主たるは貨物であり、人ではありません。人のためのサービス面を充実させねばざせるほど、スタッフの数もコストもかかつてしまふのですが、その辺りが大幅にカットされています。フェリーでは荷物はご自身で持つて乗船いたりますし、船内での荷物の移動もお客様ご自身で行つていただきます。フ

イベントはなく(一部のフェリーを除く)、もちろんドレスコードもありません。食事が簡素なものしか用意されていないとなつたらキャンセル料がかかります。しかし、フェリーの旅は、そのコースに参加者が集まらなかつたら中止にしたり、現地での観光移動手段をバスからジャンボタクシーにするなど少人数向けにアレンジしたりすることができます。ですから、お客様に喜んでいただける内容だけを考え自由に企画できるのです。最近はコースがだんだん細分化し、平均15名様で催行なので、新型コロナウイルス対策で3密にならないようになります。でも適正な水準かと思つています。

私は船の旅に携わって約50年、ゆたか俱楽部で「日本一周フェリーの旅」を始めて30年になります。フェリーはそれぞれの会社独自に運営されているため、船室のクラスの名称ひとつとっても違います。「島旅」のパンフレットを見ていただくと、旅行代金の表は説明が多く、少々複雑なものそういう理由からです。しかし、これもフェリーの旅ならではの面白さなのだと思います。フェリーに乗つて私が毎回感心するのは離島航路のキヤブテンの腕前です。約20分で接岸し、荷物を積み下ろして出航する、その手際の良さは圧巻です。タグボートとのチームプレイで着岸・出港するクルーズ客船とは、同じ船乗りであつても全く違うんだなあと実感しています。一度、フェリーにご乗船したら入出港時の手際の良さをご確認ください。フェリーの旅の楽しさがひとつ追加されると思います。

次号では、「日本一周フェリーの旅」を、歴代フェリーの話とともに振り返ります。